

(別紙1)

【出前授業の指導案(例)】小学校6学年(道徳)指導案

指導者 別木達彦

(1) 題材 ある犬のおはなし

(2) ねらい 犬の殺処分減少化への取組方を、〈飼育者の責任や愛情〉〈問題解決対処〉〈動物福祉行政〉等に着眼することから捉え、犬猫等の命の大切さに気づくとともに尊重する心を養うことができる。

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 保護犬とのふれあい体験をする。その他動物とのふれあい体験も含め感想を出し合う</p> <p>2 県内の犬猫の殺処分の数値を知る。</p> <p>3 「ある犬のおはなし」のスライドを視聴し、感想を出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">この犬のおはなしについて、どう思うか</div> <p>○犬がかわいそう。○悲しくなる</p> <p>○飼い主も寂しそう。何か仕方ない理由が・・・。</p> <p>4 次の課題について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">生きたいのに生きられない、こんな悲しい犬を少しでも少なくするにはどうしたらいいか</div> <p>○飼い主が犬の気持ちを深く考える。</p> <p>○飼い主が責任を持つようにする。</p> <p>○飼う前に家族皆でよく考え、協議する。</p> <p>○仕方ないなら、SNS等で引取者を探す。</p> <p>○新聞やメディアで命の大切さを知らせる。</p> <p>○国や県が決まりをつくらなければならない。</p> <p>○県や市町村が愛護活動に取り組む。</p> <p>6 課題に対する自他の考えを見直す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">飼い主の心が変われば、悲しい犬は少なくなるか。</div> <p>〈無くならない〉</p> <p>○飼主にもどうしようもないことが生じる。</p> <p>○これまでも無くならなかった。</p> <p>○社会全体で真剣に考える必要がある</p> <p>○法律の整備や行政の施策が必要</p> <p>〈無くなる〉</p> <p>○飼主やこれから飼う人に教育すれば。</p> <p>○決まりや法律をつくる。情報発信すれば。</p> <p>○専門機関が更に重点的に取り組めば。</p> <p>7 本時のまとめと振り返りを行う。</p>	<p>○保護犬とふれあった感想を出させ、その良さを意識付けする。</p> <p>○犬の良さが多く語られたところで、県内の犬猫殺処分数を提示する。</p> <p>○その多さに驚いたところで、犬の気持ちを考えて創られたスライドを視聴させる。</p> <p>○感じたことを素直に出させる。</p> <p>○実際に犬猫を保健所に持ち込んだ家庭があることも考えられるので、そこは配慮して、場づくりをする。</p> <p>○感想を収束し、課題の生み出しを図る。</p> <p>○〈飼育者の責任や愛情〉〈動物福祉行政〉〈問題対処〉等に着眼した考えが出てきそうなので、共通点・相違点が明らかになるよう、板書に位置づける。</p> <p>○飼い主への非難に意見が集中したときは、重篤アレルギーや動物不可の転居等の例を示し、考えさせる。</p> <p>○仕方の無い状況が生じたときの対処方法としての経験を尋ね、無いときは動物譲渡案内に関する新聞記事を提示する。</p> <p>○飼い主としての自覚・責任に対する意見が多く出された時は、その視点からの見直しを図る。(意見の集中度で、「見直し」の問いを提示する。)</p> <p>○高学年とはいえ、法律や行政等に着眼できにくいことも考えられ、その際は「動物愛護法」等の資料を示す。</p> <p>○特に「おおいた動物愛護センター」は令和元年開設であるので、その特性等も示し、考えの一助とさせる。</p> <p>○子どもの考えをまとめ、板書をもとに本時を振り返らせる。</p> <p>○本時の感想・自己の在り方等を出させる</p>	<p>○プロジェクト</p> <p>○パワーポイント資料</p> <p>○黒板が無ければ、可動式ホワイトボード。</p> <p>○殺処分数値の資料(全国・大分県)</p> <p>○新聞記事(読者のページの犬猫関係)</p> <p>○「動物愛護法」の資料</p>

《道徳の内容》 D「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」

第5学年及び第6学年

◎生命が、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。